

各地駐車協会だより

■ 埼玉駐車協会の紹介

埼玉駐車協会 会長 中村 茂

埼玉駐車協会は、初代会長逸見敬一氏の提案により昭和55年頃大宮駅を中心とした駐車場経営者の有志が集まり、大宮駐車協会として発足しました。その後全日本駐車協会の会員として入会し、大宮市が平成13年5月にさいたま市に吸収合併された際、埼玉駐車協会と名称を変更し今日に至っています。

その後、会員数も徐々に増えてきましたが、平成25年ごろから世代交代や事業の縮小で会員数が減少し、さらに令和に入ってからコロナの発生で活動が停滞したため、令和5年、第43回の総会において、役員改選を行い、会員増強を目標とし、新たな活動を開始しました。

1. 活動状況

コロナ禍の中、活動がストップする状態になり、新年会、総会、研修等がなくなり、会員の中には退会したいとの申し出が出始めたり、会費の納入が遅れたり辛い時期がありました。

しかし、令和6年2月に5年ぶりで新年会を開催したところ、予想以上に参加者があり、嬉しいスタートとなりました。

現在は、退会者を増やさないために、どんな研修を実施すべきか、検討中です。

2. 埼玉県はこんなエリア

埼玉県は武蔵野の国と言われ、明治初期には22郡から成り立っていました。

大宮氷川神社に一宮が置かれ、明治3年に天子様(明治天皇)が氷川神社を行幸。明治維新の廃藩置県で、武蔵国は埼玉県、東京都、神奈川県(横浜市、川崎市)に3分割されました。

明治4年、埼玉県が発足。現在、埼玉県の人口は730万人を超え、東京、神奈川の次に発展してきました。

また、埼玉県は関東平野の内部に位置する内陸県で、東西に103km、南北に52km、面積は3,800km²で、山地が3分の1、平野が3分の2で、風水害は比較的少ないことに加え、快晴日が多く、暮らしやすい地域です。

また、主な河川は、秩父山系を源とする荒川と利根川です。

A 県庁所在地

明治維新により、明治2年に大宮県、浦和県、そして明治4年11月14日に埼玉県として発足し、浦和宿に県庁が置かれました。

その後浦和町、浦和市として、県庁をはじめ、裁判所、市役所が置かれ、埼玉県の行政の中核として発展してきました。

平成に入り、さいたま市として合併が行われ浦和区、大宮区、中央区、岩槻区として行政区分が分かれました。

B さいたま市浦和区

さいたま市浦和区は、埼玉県の南東部に位置する県庁所在地です。

古くは中山道の宿場町として発達してきた歴史を持ち、浦和駅は明治16年7月、国鉄が上野駅、熊谷駅間を開業した際に開業。現在はJR京浜東北線、宇都宮線、高崎線、湘南新宿ラインの4路線が乗り入れています。

本市は、平成13年5月に旧浦和・大宮・与野の3市合併により誕生し、平成15年4月1日には全国で13番目の政令指定都市へと移行しました。

さらに、平成17年4月1日の旧岩槻市との合併を経て、関東圏域を牽引する中核都市として、成立しました。

C 埼玉スタジアム(サッカー場)

30haの「埼玉スタジアム公園」内にある主要施設で、規模・設備の両面において世界最高水準のスタジアムです。

D サッカー 浦和レッズ

浦和レッドダイヤモンズ(英: Urawa Red Diamonds)は、日本の埼玉県さいたま市をホームタウンとする、日本プロサッカーリーグ(Jリーグ)に加盟するプロサッカークラブで Jリーグ創設当初からのチーム、オリジナル10の1つです。

クラブ名は、創立の平成4年4月から平成8年1月までは「三菱浦和フットボールクラブ」。愛称「レッドダイヤモンズ」でした。

平成8年2月にクラブ名を「浦和レッドダイヤモンズ」に変更しました。

ただし、創立時より、ほとんどの方から「浦和レッズ」の呼称で呼ばれています。

E さいたま市大宮区

国鉄大宮駅を起点として、東北本線、高崎線、上越線、川越線の分岐点となり、蒸気機関車の操車場により、関連企業が進出し新たな産業が創造し、国鉄、企業人の街となり、大宮の経済を牽引して来ました。

現在その操車場跡地には鉄道博物館が開館し、多くの来場客で賑わっています。

また、大宮駅には新幹線6路線、JR在来線は京浜東北線、宇都宮線、高崎線、埼京線、川越線私鉄路線として東武野田線、埼玉新都市交通伊奈線(ニューシャトル)の合計13路線が結節するなど、交通アクセスの良さが魅力で、東日本の玄関口として発展しています。

一方、伝統的な技術、文化や風土は歴史的経緯から、本市の固有のものとして発祥し、一定の集積をなし、現在もその伝統性を維持しながら経済活動を行っています。

「岩槻の人形」「大宮の盆栽」「浦和のうなぎ」の3つの産業をさいたま市伝統産業に指定しています。

F さいたまスーパーアリーナ(イベント会場)

さいたまスーパーアリーナは、さいたま市中央区新都心にある多目的アリーナ。

収容人数は最大37,000人で、コンサートやスポーツイベント、展示会など、さまざまな用途で利用されています。

さいたま新都心駅に直結しているため、アクセスが非常に良く、大宮駅からは電車で約5分という近さもあり、多くの来場者に好評です。

周辺には大型ショッピングモールや国の行政機関があり、オフィスビルも立ち並び、イベント前後に食事や買い物を楽しむこともできます。

大宮駅からのアクセスのよさと、充実した周辺施設により、さいたまスーパーアリーナは首都圏を代表するエンターテインメント施設となっています。



G さいたまスーパーアリーナ駐車場

さいたまスーパーアリーナ駐車場は、さいたま新都心の西口にある駐車場です。

「けやきひろば駐車場」を加えた2か所の駐車場は、埼玉駐車協会会員の日本ガレージサービス(株)が管理運営しています。

さいたまスーパーアリーナ駐車場 292台(機械式0台)

けやきひろば駐車場 177台(機械式118台)

H サッカー 大宮アルディージャ

昭和44年に結成された「電電関東サッカー部」が母体となり、平成10年に誕生しました。「スポーツを通じて夢と感動をわかち合える、より良い地域社会の実現に貢献します。」という理念のもと、地域の発展に貢献できるよう活動を続けています。

3. 埼玉県観光名所

A 行田市

「埼玉古墳群」は、県名発祥の地「埼玉(さきたま)」にあります。

古墳群は5世紀後半から7世紀中頃にかけて、大宮台地の北端に連続して築かれた前方後円墳8基、大型円墳2基、方墳1基並びに小円墳群で構成される古墳群です。

(ア) 稲荷山古墳

古墳群の一つ「稲荷山古墳」より「金錯銘鉄剣(きんさくめいてっけん)」が発見されました。

鉄剣には、「辛亥(しんがい)に記した」と刻まれていました。

平城京ができるよりも約240年前に、この地「武蔵国(現・埼玉県行田市)」には、豪族が住んでいたこととなります。

(イ) 行田の忍城(おしじょう)

関東七名城の一つとされる忍城は、室町時代の文明年間の初め頃に行田周辺を支配した領主成田氏が築城したといわれています。



時は戦国時代の終わり、豊臣秀吉の関東平定に際して、天正18年の石田三成の水攻めにも耐えたといわれる名城。「浮き城」の別名が生まれたと伝えられています。

(ウ) 行田の足袋

行田足袋(ぎょうだたび)は、埼玉県行田市に本社を置く企業が製造する足袋です。

江戸時代中期に産業として誕生し、以来、約300年にわたり行田は日本有数の足袋生産地として知られています。

(エ) 十万石まんじゅう

昭和20年太平洋戦争終戦後、砂糖の統制が解かれてまもなくの頃、旧忍藩十万石の地「行田」にその忍藩自慢のお米の形をしたしっとり白い肌のまんじゅうが産声をあげました。

行田名物として「十万石まんじゅう」と命名されました。

(オ) 吉見の百穴

吉見百穴(よしみひゃくあな/よしみひゃっけつ)は、埼玉県比企郡吉見町にある古墳時代後期の横穴墓群の遺跡で、横穴墓の数は確認できるだけで219基あります。

B 川越市

川越市はさいたま市、川口市に次ぐ35万人の人口を擁する埼玉県第三の都市です。

「小江戸(こえど)」で知られる観光都市で、年間700万人を超える観光客が訪れています。

川越は江戸時代に栄えた城下町であり、その面影を現在でも色濃く残しています。

漆喰が塗られた蔵造りの建物が作り出す、歴史情緒に溢れた景観は「川越」の大きな特徴です。

(ア) 菓子屋横丁

菓子屋横丁とは、川越市の観光名所の一つで、重厚な蔵造りの町並みが続く「一番街」を過ぎ、「札の辻」交差点を曲がり、最初の角を入った先に存在します。

全長200メートル程度の短い通りに昔ながらの菓子屋が並び、訪れた人にタイムスリップしたような懐かしさを感じさせます。

また川越城の一部、本丸御殿は現存しており、平成18年には「日本100名城」に選ばれました。

C 秩父市

(ア) 三峯神社

奥秩父の山中に鎮座する古社で、日本武尊 [やまとたけるのみこと] の創祀といわれ、御眷属 [ごけんぞく] (神の使い) として祀られる山犬(狼)の信仰で名高く、社名の「三峯」は、東方に連なる雲取山、白岩山、妙法ヶ岳を指します。

(イ) 長瀨

長瀨には、「長瀨岩畳」「長瀨ライン下り」「宝登山(ほどさん)神社」「宝登山ロープウェイ」「宝登山小動物公園」などの人気の観光スポットが多くあります。

「和食・鮎料理」「そば・うどん」「天然かき氷」などのご当地グルメも堪能できます。

(ウ) 板碑

板碑(いたび)は、主に供養塔として使われる石碑の一種です。

鎌倉時代から、武士の戦場での功績などを記させ、子孫に残したと思われます。

のちに徳川時代から始まる家制度の原型ではないかと言われてます。

なお、板碑があるところに、お寺が建立されていることが多いです。

板石卒塔婆、板石塔婆と呼ばれ、特に典型的なものとしてイメージされる武蔵型板碑は、秩父産の緑色片岩を加工して造られるため、青石塔婆とも呼ばれています。

(エ) 高麗郡(こまぐん)

霊亀2年、武蔵国に高麗郡が置かれました。

高麗とは、かつて朝鮮半島中北部から中国東北部を領有した高句麗(こうくり)を指します。

高句麗滅亡前後、多くの高句麗人が日本に移り住みました。

『続日本紀(しょくにほんぎ)』によれば、高麗郡建郡当初、東国7ヶ国に住む高麗人1,799人が武蔵国に移住したとあります。約1200年間続いた高麗郡は、明治29年入間郡に組み入れられて、その名が消えました。

高麗郡が廃止された明治29年には鶴ヶ島市を始め、川越市、狭山市、入間市の一部を含む広域にわたっていました。平成28年高麗郡建郡から1300年を迎えました。

(オ) 新羅郡(しらぎぐん)

『続日本記』によれば、渡来人を中心に郡が置かれた「高麗郡」が霊亀2年旧新座郡の前身である新羅郡は天平宝字2年に設置されたといわれています。

「日本に帰化した新羅の僧32人、尼2人、男19人、女21人を武蔵国に移住させ、はじめて新羅郡をおいた」と記録されています(『続日本記』)。

時代は奈良時代の半ばを過ぎたころで、新羅郡は武蔵國のなかではもっとも新しくつくられた「郡」です。

(カ) 大宮鉄道博物館

鉄道博物館は、元々は、東京・神田(万世橋近く)に「交通博物館」という鉄道系の博物館がありました。

その博物館は平成18年5月に閉館し、展示品の多くが埼玉・大宮に新設された「鉄道博物館」に移されました。

そして、JR東日本創立20周年記念事業のメインプロジェクトとして、平成19年10月14日、さいたま市大宮区に開館しました。

館内は車両・歴史・仕事・科学・未来の5つのステーションに分け、多彩な切り口で人と鉄道の豊かな物語を展開する博物館へと生まれ変わりました。

(キ) 所沢航空発祥記念館

明治44年、日本初の飛行場として開設された「所沢飛行場」を記念した展示施設で平成5年、開設されました。

ここでは航空機の飛行原理、航空技術や歴史などを紹介し、模擬飛行体験ができるフライトシミュレータ、スペースウォーカー(低重力体験装置)、ワークショップ、大型映像館などで楽しみながら理解することができます。

4. 埼玉の三大銘菓

草加せんべい：余った団子を潰して焼いたのが始まりと言われます。米の選び方と生地作り方が味の8割を決めるといわれ、昔ながらの手作り製法が守られています。



川越の芋菓子：江戸時代にサツマイモ栽培が盛んだった川越で発展しました。

菓匠右門の「いも恋」はサツマイモとあんこを長芋ともち米の生地で包んだもちもちとした食感が特徴です。



熊谷のごかほう五家宝：文政元年から文政12年に「五嘉棒」として販売が始まり、「五穀は家の宝である」という意味を込めて現在の名前になりました。

もち米を薄く延ばして碎き、あられ状にしたものを円筒状に固め、きな粉をまぶしたお菓子です。シャキシャキとした食感と香ばしいきな粉の風味が特徴で、素朴でまろやかな甘さが楽しめます。



5. 埼玉駐車協会の現状と今後

埼玉駐車協会の会員は、ほとんどが各駅前に駐車場を経営しており、新しいビル、マンションが次々に建設され、商業施設が多数進出する中、変化する社会のスピードにどう対応するか悩みが尽きない日々を過ごしております。

また、地価が上がり、土地を所有している駐車場経営者としては固定資産税の増税は悩みの種です。

そこで、駐車協会としては、県内のそれぞれの地域の情報発信を行い、客を誘導しやすい仕組み作りが今後の課題と考えております。

また、地域の良さを発信するには、駐車協会だけでは無理で、地域ごとの町会、商店会、商工会議所等との連携が大切と考えられます。

来年度から会員訪問の際、商店会の方々との面談も併せて行い、地域の想いを直接伺い、それを埼玉駐車協会ホームページで情報発信できるよう、進めていきたいと思っております。